

文京ふるさと歴史館

BUNKYO MUSEUM NEWS

だより

第24号 / 平成29年6月23日発行

ぶんきょうゆかりの歌人 窪田空穂
—生誕140年・没後50年—

2

文京の幼稚園物語

4

冊子刊行のお知らせ

6

平成28年度のあゆみ

7

平成29年度の催し

8



▲歌川国芳「江戸じまん名物くらべ こま込のなす」(館蔵)

ぶんきょうゆかりの歌人 窪田空穂 —生誕 140 年・没後 50 年—

窪田空穂(本名:通治 1877生-1967没)は、50年を越える年月を文京で過ごした、ゆかりの歌人・国文学者です。明治・大正・昭和にわたる長い文芸活動のなかで、和歌、随筆ほか多くの優れた作品を生み出し、また古典和歌や作歌について一連の研究を行い、早稲田大学などにおいて教鞭をとりつつ、和歌を研究・愛好する多くの後継者を育てました。

生い立ちから歌人へ

空穂は、1877年、長野県東筑摩郡和田村(現 松本市)に、篤農家の父寛則・母ちかの末子として生まれます^{*1}。明治期の農事改良を身近とし、また都々逸・発句の会などが盛んに行われていた当時の村の環境に身を置いていました。

1895年、長野県尋常中学校(現 松本深志高等学校)を卒業した空穂は、東京専門学校(現 早稲田大学)に入学、翌年退学し、地元で代用教員を経験するなど紆余曲折を経たのち、1900年再上京、東京専門学校に再入学します。この間、すでに作歌活動を行っていた歌人・太田水穂(当時は和田村など地元の小学校教員)と出会い、空穂自らも和歌を詠み、与謝野鉄幹主宰の雑誌『明星』などへ投稿を行い、文芸への志向を深めています。再上京後は『明星』や学校周辺の人びとなど、多くの歌人や文学者との交流を持ちます。卒業後は、新聞・雑誌等の記者や編集者を経験、『皇族画報』などの企画も手がつつ、学校教員、文芸誌主宰など多方面において活動します。1905年、第一歌集『まひる野』をはじめ、1967年满89歳で亡くなるまでに23冊もの歌集を発行し、全集に記載されるだけでも1万4000首以上にもなる和歌を詠みました。折に触れ、機微を捉え、詠まれた空穂の歌には、文京の地が多く登場します。



空穂 自宅縁側にて(1953年頃) 窪田空穂記念館所蔵

文京に暮らす —50年を超える足跡—

空穂が故郷松本を離れたのは満18歳(1895年)のことです。随筆「私の履歴書」^{*2}には、家族に「松本へ用たしに行ってくる」と伝え、かねてからの「決心」のもと「出奔」、上田までの15里(約60km)を徒歩で、上田からは汽車でという上京の事情が記載されています。その際、「小石川伝通院前、表町」(現小石川2・3あたり)にあった「素人屋」(素人下宿)に、松本時代の友人を頼り止宿しています。

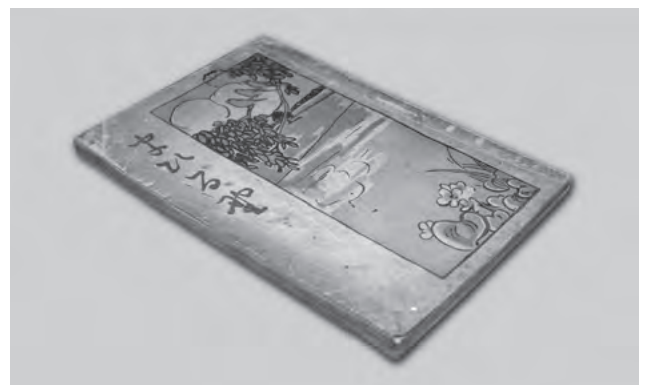
また空穂の体験記と思われる「近火類焼の記」^{*3}には、東京専門学校に再入学した際(1900年頃)のこととして、「旧小石川区上富坂町」(現 小石川2)の「いろは館と称する学生宿屋」に下宿、そこで類焼火災に遭遇し、早稲田方面の下宿に引越したという出来事が記載されています。ここには「学生下宿の建築は決まっていた。前面は、長屋風、惣二階で、これを碁盤のようにくぎって、狭い一と句切が一室になっていた」などの描写があり、当時の下宿や学生生活を知る上でも、貴重な文献となっています。

1905年から翌年あたりにかけて暮らしたのが、湯島天神町2-26番地(現 湯島3)の伏龍館という下宿です。空穂の第一歌集『まひる野』は、この当時発行されたもので、題名は「湯島天神下の下宿」にて太田水穂とともに考えたものと後年記しています。^{*4}

1907年頃には牛込区(現 新宿区)に移りますが、その後、本郷区菊坂町にあった女子美術学校の講師となり、1911年秋には、家族とともに小石川区竹早町118番地(現 小石川5)で暮らします。1915年7月、一家は小石川区久堅町74番地(現 小石川5あたりか)に、翌年5月には雑司ヶ谷亀原1番地(現 豊島区)に移転、1917年、そこで妻・藤野を亡くします。

子どもを妻の生家(現 松本市)に預け、1917年、単身で一時仮寓したのが本郷区追分町41番地にあった神保館(現 向丘2)です。ここで空穂は「本郷の下宿屋にて」として「妻あらず家持たぬ身を、なほざりに寄する此宿…」からはじまる長歌、また「さやかなる月ぞといふに障子あけ庇間に狭き空を見上ぐる」などの短歌を詠んでいます。

1920年、空穂は早稲田大学の教員となります。翌21年、小石川区雑司ヶ谷町88番地(現 目白台2)に新居を構え、以後1967年に終焉を迎えるまで46年にわたり、ここに暮らしました。



空穂の第一歌集『まひる野』(1905年発行)

空穂の和歌 一文京の季節を詠む一

空穂の和歌のなかから、文京の地域・季節を詠みこんだいくつかをご紹介します。

小日向のとある坂をば登りつつ、ふと見出でたる初冬の富士

“坂の町”文京区には、多くの坂道があり、かつて坂上から富士山が見えたことにより富士見坂などと命名された坂道もあります。しかし現在、富士山を見渡すことは難しくなっています。この短歌は、歌集『空穂歌集』（1912年）に掲載のもの、文京区小日向の「とある坂」を登る歌人の目に「ふと」映る「初冬の富士」、100年以上も前の文京ならではの風景と季節感が詠みこまれた歌です。

咲き照れる桜仰ぎて我が童^{わらべ}その手さし伸べ花に触りにけり

歌集『土を眺めて』（1918年）に掲載の短歌で、「植物園」と題し、「子と共に久しぶりに遊びに行きて」との詞書がある14首のうちの一つです。「我が童」とは長男・窪田章一郎（後に歌人・早稲田大学教授）のことと思われます。亡妻の生家に預けていた章一郎とともに暮らすようになった頃の歌で、「久しぶり」には、そうした感慨が含まれているものでしょう。章一郎によれば「植物園」とは小石川植物園のこと、「空穂は桜が好き」で、「できるかぎり花時に何処かへ出かけるのが習慣になっていた」^{※5}とのこと。空穂の歌には桜や花、樹木などの植物が多く詠まれています。

この台に繁き大槻今日はしも萌^も黄^きほぐれて青葉となれる

歌集『鏡葉』（1926年）掲載、「目白台、若葉す」と題した3首のうちの一つです。自らが暮らし、歩く目白台の地を「この台」と捉え、表現するこの歌は、若葉のやわらかな季節を感じさせます。ほかにも「檜かへで槻ごとごとく若葉してわが住む台は大き庭かも」（『冬日ざし』1941年）など、空穂は折に触れ、「台」に自生する「槻」（ケヤキの別称）を歌に詠んでいます。また『老槻の下』（1960年）と題する歌集もあり、その後記には「多年住み馴れている小宅の地内に、この辺りに多い槻の老樹が一本あり、日々親しんでいるところから」題名にしたとあります。

目白台の空を真北に渡る雁^{がん}稀に見る雁の四五十羽かも

歌集『さざれ水』（1934年）に掲載、「小庭」と題する秋の情景を詠んだ5首のうちの一つです。数十羽もの雁が目白台の空を渡る、「稀に」とあるように、そうした光景は当時にしても壮観だったのではと思われます。いずれにしても私たちは、当時の文京の空がどのようにあったのか、人はそれをどのように見ていたのか、そうした情感を知る手だてをあまり持ってはいません。日々の暮らしのなかで機微を捉え、詠まれた空穂の和歌こそが、それを私たちに伝えてくれるのだと思います。

ここに紹介した歌は、ほんの一例となります。空穂は、文京の地域・季節を詠んださらに多くの歌を残しています。

生誕140年・没後50年 特別展

空穂は「私は師と称する人をもたず、したがって詠草の添削を受けたことは一回もない。最初から解放されていた」^{※6}、また「和歌はその作者自体である。作者を離れては和歌はない」^{※7}さらに「自分で歌が詠める気分をこしらえて、ぼちぼち歌を詠む時の気分は、無上にたのしい時」^{※8}と記してもいます。空穂は、独自の感性で和歌の世界を切り開きつつ、この文京の地において、自らを見つめる暮らしのなかから、現代にも愛誦される膨大な歌の数々を生み出していきました。

一方で、『万葉集』『源氏物語』『古今和歌集』『新古今和歌集』ほかの古典和歌研究をすすめ、和歌という特別に永い歴史を持つこの文化の、研究者・理解者を多く育てました。

特筆すべきは、全国に「空穂系」と称されるような多くの門人や、和歌を愛する歌人・研究者たちの人の環を、生涯にわたり、広げ続けたということです。

そして満89歳、この地で没する長い生涯の晩年に至るまで、旺盛な作歌・執筆活動を行った、まさに日本の近現代を代表する歌人であると言えるでしょう。

文京ふるさと歴史館では生誕140年・没後50年を迎える平成29年、文京ゆかりの歌人・窪田空穂をテーマに特別展を開催します。文京の地を、人を、季節を詠んだ多くの作品や、ゆかりの品々を展示いたします。みなさまの来館をお待ちしています（会期：平成29年10月21日～12月3日予定）。

（東條 幸太郎）

註

- ※1 現在、生地には窪田空穂記念館が開館しています。
- ※2,3 『窪田空穂全集別冊』（窪田空穂著 1968年）より
- ※4,6,7,8 『わが文学体験』（窪田空穂著 『窪田空穂全集』第6巻 1965年）より
- ※5 『窪田空穂の短歌』（窪田章一郎著 1996年）より



空穂筆の短冊 いずれも文京の季節を詠んでいる

文京の幼稚園物語

幼児教育のはじまり

幼稚園とは、ドイツの教育学者フレーベルが提唱した幼児学校 (Kindergarten) を日本にも導入したもので、近代的な幼児教育を行う学校です。日本における近代的幼児教育は、明治9年 (1876)、湯島の東京女子師範学校〔後の女子高等師範学校、現 お茶の水女子大学〕内に附属幼稚園が設けられたことを契機として、文京の地で始まりました。

明治5年に発布された『学制』では、小学校就学前の幼児の教育機関として「幼稚小学」が規定されていましたが、明治8年に京都で設立された柳池小学校附属幼稚遊嬉場が約1年半で廃止されるなど、幼児教育の普及は進んでいませんでした。そこで女子師範学校では、文部官僚の田中不二麿や、棋理 (校長) で教育者の中村正直などが働きかけて、幼児教育の規範となるべく附属幼稚園が設立されました。

この幼稚園は、関信三を監事 (園長)、ドイツから来日したクララ・チーテルマン (松野クララ) を主任保母、豊田英雄と近藤浜を保母として開園されました。松野クララは、故国でフレーベル



絵葉書「東京お茶之水橋電車」
(奥の建物が女子師範学校)

式の幼児教育法を学んでおり、『幼稚園記』など幼児教育に関する本を執筆した関信三と共に、日本の

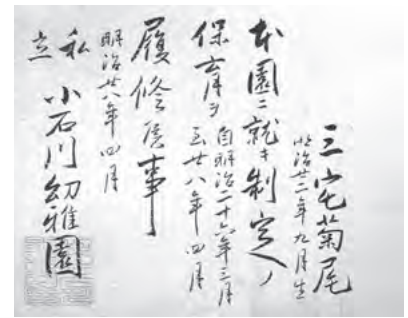
幼稚園教育に大きな影響を与えました。また、園を利用して幼稚園保母の育成もおこなわれるようになり、ここを巣立った多くの卒業生たちが、全国の幼稚園で活躍することになります。

初期の幼稚園

女子師範学校に続いて、全国各地に幼稚園が設立されました。東京でも、明治13年に麹町区で私立桜井女学校附属幼稚園が設立されたのに始まり、18年には7園、19年には12園、21年には17園と、徐々にその数を増やしています。文京区域では、明治19年に小石川区小日向水道端町の日輪寺境内に小石川幼稚園、本郷区駒込東片町に駒込幼稚園と、2つの私立幼稚園が開園されました。また公立幼稚園としては、明治20年に本郷区の誠之小学校、明治24年には小石川区の礪川小学校に、それぞれ附属幼稚園が開設されています。

小石川幼稚園を設立した山田千代 (1851～1913) は、女子師範学校内に設けられた、保母練習所の第一期生でした。幼

稚園の開園にあたっては、吃音矯正や音楽教育で有名な伊澤修二などの後援を受けたと伝えられています。この幼稚園では、田中不二麿や医科大学教授の三宅秀など、貴顕の子弟も多く通



小石川幼稚園の卒園証書
(三宅菊尾は三宅秀の三女)

い、教え子の中から多くの学士が輩出されました。

駒込幼稚園を開園した古市静子 (1847～1933) は、豊田英雄の弟子とも言える人物でした。駒込幼稚園〔後に沖静幼稚園〕は、森川町、湯島切通町、麟祥院境内 (龍岡町) など本郷区内を転々とした後、明治32年に弓町二丁目に移転します。キリスト教徒である古市は、弓町本郷教会の日曜学校に園舎を解放するなど地域とも連携した活動をしていましたが、41年の道路拡張の影響で大森区に幼稚園を移転しました。この幼稚園は、その後うさぎ幼稚園と改称され、現在も存続しています。

誠之小学校附属幼稚室〔後に附属幼稚園、現 第一幼稚園〕は、阿部伯爵家の後援と寄附などを受けて設立されました。明治30年には現在地で独立した施設となり、大正10年 (1921) には誠之小学校からも独立して本郷区第一幼稚園となりました。

全国的な幼稚園数は、明治20年の67園から24年の147園、30年には222園と大幅に増加しましたが、文京区域の幼稚園数に変動はありませんでした。小石川区では、礪川小学校附属幼稚園が明治32年に廃止されてしまったためか、小石川幼稚園から東京府知事宛に、周辺に類似の施設が無いので園児を増員して対応したいという要望書が、36年に提出されています。

増加する幼稚園

初期の幼稚園数の増加は、各地に設立された公立幼稚園が支えていましたが、明治30年代後半からは、都市部での私立幼稚園数の増加が指摘されています。文京区域でも、同時期に私立幼稚園が増加していますが、小石川区と本郷区では異なった傾向がみられます。

本郷区域では、明治36年に日本女学校〔現 相模女子大学〕附属の幼稚園が、38年には哲学館〔現 東洋大学〕・京北中学の系列校として京北幼稚園が設立されたほか、明治末年には田中代用小学校と習性代用小学校に幼稚園が新設されるなど、既存の学校が附属幼稚園を設立した事例が多くみられます。

一方小石川区域では、東京女子師範学校附属幼稚園〔現 東京学芸大学附属幼稚園竹早園舎〕などの学校附属園も設立されていますが、慈善幼稚園〔現 同仁美登里幼稚園〕、松ヶ枝幼稚園、明治幼稚園〔後に上富坂幼稚園〕などのキリスト教系や、山田千代の没後に日輪寺が開園した大正幼稚園や音羽幼稚園などの仏教系と、宗教団体が設立した幼稚園が多くみられます。また小石川区では、東京女子師範学校、日本女子大学、東京

保母伝習所(彰栄幼稚園を付設)、貞静学園など、幼稚園保母を養成する機関が多く、これに附属して設立された幼稚園が多いことも特徴的です。

大正15年に幼稚園令が出され、幼稚園の一般化と普及が図られると、幼稚園数の増加に拍車がかかります。昭和10年(1935)頃には、小石川区には23園(同9年)、本郷区には7園(同12年)の幼稚園がありました。小石川区では、多くの私立幼稚園が設立されていたためか、礪川小学校附属幼稚園の廃止以後、東京市立の幼稚園は設立されませんでした。

戦後の幼稚園

太平洋戦争が激化した昭和19年3月には、幼稚園廃止令が出され、幼稚園は休園するか、戦時保育所に変えられました。幼稚園の中には、空襲の被害に会い、焼失してしまった園もありました。

戦後、戦争中に休園状態となった幼稚園の中から、徐々に再開される幼稚園が出てきます。第一幼稚園は、昭和21年に再開されましたが、その準備に職員が訪れた時には、園舎にはまだ罹災した人が住んでいたそうです。その後、ベビーブームや女性の社会進出の影響を受けて多くの園が必要とされる中で、再開された園以外に、新しい幼稚園も設立されました。

新しい幼稚園の一つに、阿部幼稚園があります。理学博士で元伯爵の阿部正直(1891~1966)は、長男の嫁 伊津子が

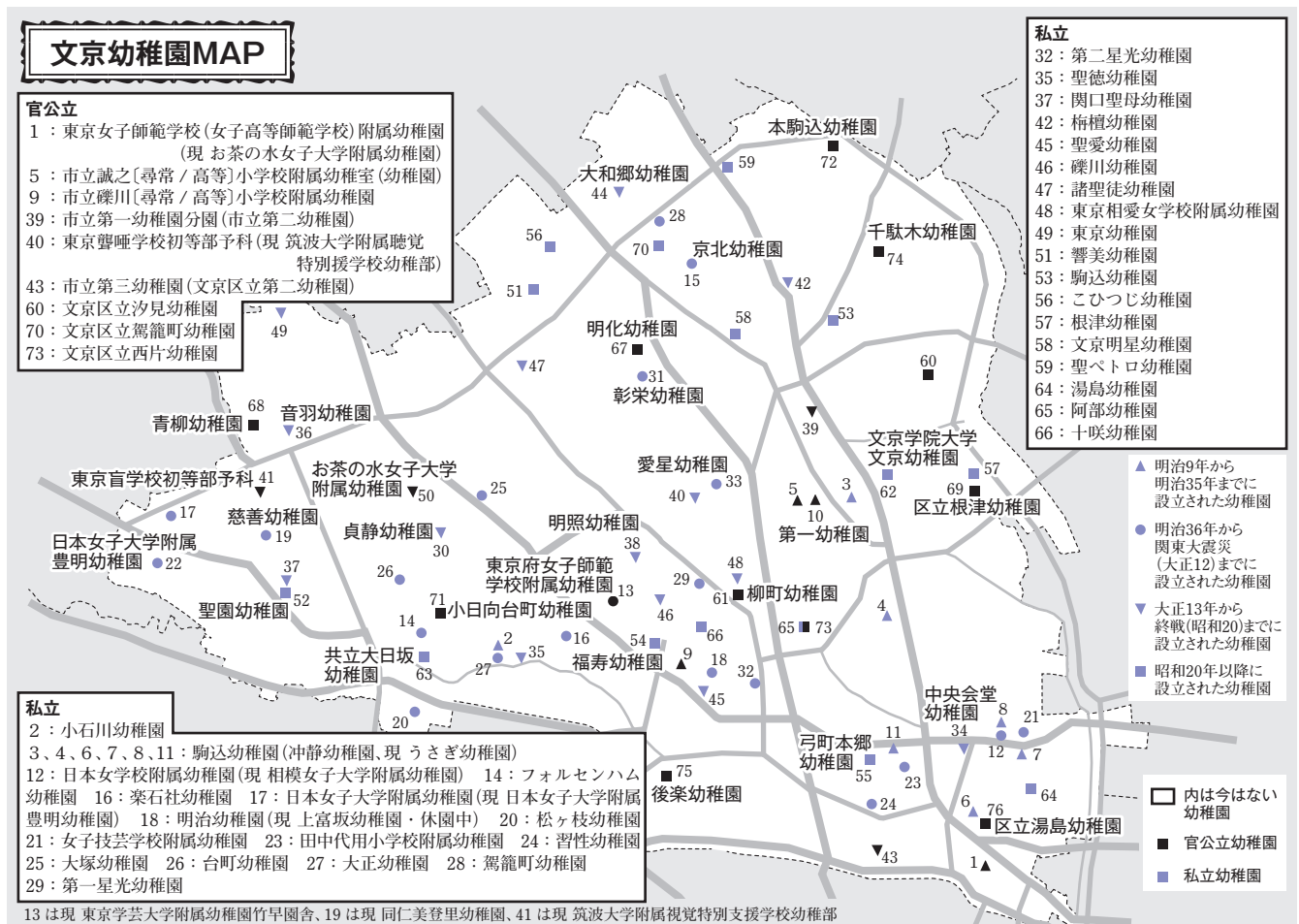
幼稚園教諭の資格を持っていたことなどもあって、昭和30年に幼稚園経営に乗り出しました。阿部幼稚園の『園だより』は、園での教育の意図や行動規範の意味が詳しく説明され、幼稚園教育にかける正直の熱意が伝わってくる内容となっています。昭和42年に閉園された阿部幼稚園ですが、その後区立西片幼稚園へと引き継がれ、現在では子育てひろば西片として、多くの親子が集う場所となっています。



園児に見せるために映写機を操作する阿部正直

区内の幼稚園数は、第二次ベビーブーム期に生まれた子供達が入園する昭和49~51年頃が最も多く、40園の幼稚園がありました。現在文京区には、官公立14園(認定こども園を含む)、私立15園、合わせて29の幼稚園があります。

区内には、創立から100年を数えた、歴史ある幼稚園が8園あります。その一方で、平成28年(2016)にお茶の水女子大学構内に文京区立お茶の水女子大学こども園が設立されるなど、現在も注目を集めています。(加藤 芳典)



絵でみる明治のぶんきょう

—『新撰東京名所図会』を楽しむ—

『新撰東京名所図会』の挿絵を中心に、現状写真と簡単な説明をした冊子を刊行しました。『新撰東京名所図会』は、明治29年(1896)から44年まで、雑誌『風俗画報』の臨時増刊として発行されたものです。当時の東京の様子を文章と挿絵や写真で紹介しています。その当時、文京区は小石川区と本郷区に分かれていて、それぞれ「小石川区之部」(39・40年刊)と「本郷区之部」(40年刊)として刊行されました。明治の末頃の文京区を知ることのできる貴重な資料です。挿絵は、カラーで印刷されているものが多く、当時の町並み、人々の様子が詳しく描かれています。現状写真と比較するとおよそ百年間に、その場所にどのような変化があったのかがわかります。「小石川区之部」と「本郷区之部」には19点の挿絵が掲載され、変化の激しい場所もあれば、そうでない所もあります。冊子には、挿絵の紹介だけでなく、挿絵に描かれた場所を地図にしているので、実際に挿絵の場所を訪れることもできます。



A4版 28ページ
オールカラー
頒価240円



頒布場所

文京ふるさと歴史館
行政情報センター(文京シビックセンター2階)
*郵送希望の方は、当館までお問い合わせください。



ありがとう 入館者50万人達成!

平成28年10月25日に、千葉県からお越しのお客様を、記念すべき50万人目の入館者としてお迎えすることができました。ふるさと歴史館は平成3年4月14日に開館してから今年で26周年となりました。これまでご来館いただいた多くの皆様に感謝を申し上げます。



平成28年度のあゆみ

小・中学生のための歴史教室

「この形はなんだろう？ わがはい君シルエットクイズ」

◆7月17日(日)～8月31日(水) 参加者数……135人

特別展

「文京むかしむかし黎明編 ーうみ・やま・ひとの物語ー」

◆10月22日(土)～12月4日(日) (延べ38日間) 入館者数……2,744人

◆記念講演会

11月20日(日) 会場:文京区男女平等センター 参加者数……80人

「『弥生』誕生の地で『縄文』を考える」

／菊池徹夫氏(早稲田大学名誉教授・福島県文化財センター白川館まほろん館長)

◆展示解説 10月26日(水)、11月16日(水)、11月22日(火)、11月30日(水)

収蔵品展

「明治・大正の本郷を訪ねて ー『新撰東京名所図会』展Ⅱー」

◆2月11日(土・祝)～3月20日(月・祝) (延べ33日間) 入館者数……3,305人

◆展示解説 2月18日(土)、2月24日(金)、3月2日(木)、3月14日(火)

文の京ゆかりの文化人顕彰事業

◆朗読コンテスト

10月30日(日) 課題作家:宮沢賢治 会場:跡見学園女子大学プロッサムホール

本選出場者……16人 観覧者数……274人

◆歴史講演会

11月12日(土) 会場:文京区民センター 参加者数……142人

「宮沢賢治の弟、祖父・清六から聞いた賢治のこと」

／宮澤和樹氏((株)林風舎代表取締役)

◆史跡めぐり 「千駄木ゆかりの文人を訪ねて」

12月3日(土) 参加者数……36人

ミニ企画

◆4月27日(水)～7月10日(日) 「『むさしあぶみ』の世界 ー明暦の大火を記録するー」

◆7月12日(火)～9月25日(日) 「まわす」

◆9月28日(水)～12月25日(日) 「“地”の巨人 ー文京ゆかりの考古学・人類学者鳥居龍蔵伝ー」

◆1月5日(木)～3月20日(月・祝) 「酒器 ー高崎屋コレクションー」

史跡めぐり

◆第1回 6月10日(金) 絵でみて歩く 東都小石川絵図 参加者数……43人

◆第2回 11月10日(木) 文京区海岸物語・貝塚跡を訪ねて

参加者数……42人

◆第3回 3月7日(火) 『新撰東京名所図会』ゆかりのまち歩き ー描かれた本郷を訪ねてー 参加者数……52人

ワークショップ

「あなたの名所ものがたり 本郷編」

◆第1回 10月29日(土) 参加者数……4人

◆第2回 11月26日(土) 参加者数……10人



歴史教室



特別展



歴史講演会



史跡めぐり



ミニ企画



収蔵品展

平成29年度の催し

※それぞれの事業の開催日時や募集方法等は、歴史館ホームページおよび「区報ぶんきょう」にて、お知らせします。

夏休み歴史教室

わがはい君魔法学校 歴史館で謎をとこう!(仮)
7月15日(土)～8月31日(木)
常設展示室を見学しながら、クイズに挑戦してもらいます。事前申込不要、参加者には記念品を贈呈。

文の京ゆかりの文化人顕彰事業 朗読コンテスト

本選 10月29日(日)13時～16時
会場:跡見学園女子大学 プロッサムホール
文京ゆかりの作家の作品を朗読。今年の課題作家は夏目漱石です。コンテスト形式で優秀者を選び表彰します。
※参加者・観覧者募集の方法等は、ホームページなどでお知らせします。

特別展

季節のうた ― 歌人 窪田空穂 生誕140年・没後50年―
10月21日(土)～12月3日(日) ※11月3日(文化の日)は無料公開日
50年を超える年月を文京で暮らした歌人窪田空穂、生誕140年・没後50年となる今年、文京の地や季節を詠んだ作品等を展示する特別展を開催します。

文の京ゆかりの文化人顕彰事業 歴史講演会

今年は生誕150年を迎える幸田露伴をとりあげます。
11月2日(木)13時30分～15時30分
会場:文京シビックホール 小ホール
講師:青木奈緒氏(エッセイスト・幸田露伴の曾孫)
定員:300人(要申込・抽選) 参加費:無料

史跡めぐり

歴史館友の会まち案内ボランティアが、区内の史跡等をご案内します。
年3回(6月、11月、3月)開催予定。要申込(往復はがきにて)。
参加費 保険40円・入館料等実費。

文の京ゆかりの文化人顕彰事業 史跡めぐり

12月頃実施予定 要申込(往復はがきにて)。
参加費 保険40円・入館料等実費。

収蔵品展

コドモノマナビヤ(仮)
2月10日(土)～3月18日(日)
日本の近代幼児教育発祥の地である、文京区の幼稚園の歴史をご紹介します。

レファレンス

毎月第2・4木曜日13時30分から16時30分まで、館内1階レファレンスコーナーにて、ご質問にお答えします。

ワークショップ あなたの名所ものがたり

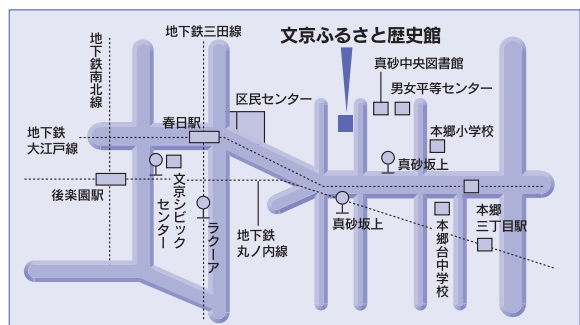
日時:8月8日(火)・10月7日(土)13時～17時
会場:東京大学 定員:各12人(要申込・抽選)

常設展示ボランティアガイド

ふるさと歴史館ボランティアガイドが、毎週土・日曜日、13時から17時まで常設展示の解説を行います(申込不要・無料)。
上記日時以外のご希望も受付けています。2週間前までに、文京ふるさと歴史館へ電話連絡し、申請書を提出してください。

利用のご案内

- ◆開館時間:午前10時から午後5時まで
- ◆休館日:月曜日・第4火曜日(休日にあたる時は翌日)くんじょう期間、年末年始
- ◆入館料:一般個人100円、団体(20人以上)70円
中学生以下・65歳以上無料
*特別展は別に定めます
- ◆交通:東京メトロ丸ノ内線・都営大江戸線「本郷三丁目」から徒歩5分
都営三田線・大江戸線「春日」から徒歩5分
都営バス [都02][上69]「真砂坂上」から徒歩1分
文京区コミュニティバスB-ぐる「文京シビックセンター」または「ラクーア」から徒歩10分
- ◆ホームページ: <http://www.city.bunkyo.lg.jp/rekishikan/>



文京ふるさと歴史館

〒113-0033 東京都文京区本郷四丁目9番29号 電話(03)3818-7221